

2009年8月24日

新型インフルエンザ感染により重症化しやすいため、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる基礎疾患を有する者の範囲や定義

日本血液学会

診療委員長 黒川 峰夫

理事長 池田 康夫

造血器腫瘍患者は原疾患および治療によって著しい免疫不全状態に陥る。したがって、すべての造血器腫瘍患者に対して新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる。

1. 小児・成人の造血器腫瘍患者  
急性白血病、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、慢性リンパ性白血病、多発性骨髄腫に対する治療中または治療終了後1年以内の患者
2. 小児・成人の再生不良性貧血患者
3. 造血幹細胞移植治療を受けた小児・成人患者
4. 小児の原発性免疫不全症候群患者
5. 溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病に対して、免疫抑制療法を受けた小児・成人患者

(注意)

- 1) 原疾患あるいは治療により免疫能の低下した患者においてはワクチンを接種しても免疫が獲得されない可能性も高い。したがって各患者において接種時期を慎重に考慮する必要がある。たとえば、造血幹細胞移植を受けた患者では通常移植後6ヶ月以内のワクチン接種は効果がなく、6ヶ月以後のワクチン接種が推奨されている。
- 2) 患者にワクチンを接種して新型インフルエンザを予防する意義は大きい。造血器腫瘍患者は入院して加療されていることが多いため、医療者あるいは家族に対するワクチン接種の意義も大きい。
- 3) 造血器腫瘍患者が新型インフルエンザを発症した際には抗ウイルス剤を優先的に使用できるように準備をすべきである。